

冬号

## 健管だより

2023年12月発行 堀川病院 健康管理部



日頃より堀川病院をお引き立てくださりありがとうございます。2023年も残すところわずかとなり、いよいよ押し迫ってまいりました。今年は暖冬とはいえ、日中でも寒さ厳しい毎日ですね。皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。健康管理部におきましては、今年も多くのお客様、個人様にご利用いただき、スタッフ一同心より感謝しております。健診を提供する私たちの想いは、『早期に心身のサイン（異常）に気づき、早期治療・さらなる健康増進に努めていただきたい』ということです。とりわけ、がん検診の推進には力を注いでおり、お一人おひとりの既往歴や家族歴・生活背景について丁寧な聴き取りを行い、必要ながん検診をご提案させていただいております。また、要再検査・要精密検査と判定された場合、医療機関への受診勧奨および経過の追跡を行い、早期に適切な治療につながるよう努めております。お忙しいなかたいへん恐縮ではございますが、受検者様には電話や手紙による勧奨に耳を傾けていただき、速やかに医療機関をご受診いただきますようお願いいたします。お一人のもれもなく、早期発見・早期治療にてがんで亡くなる方をなくしたい、これが私たち健康管理部の強い想いです。堀川病院をご利用くださる皆様には、今後も何卒ご理解ご協力いただきますようお願い申し上げます。

## がん検診のすすめ ～放置できる??検診で『異常あり』～

35歳以上ならほとんどの人が一度は受けたことがあるがん検診。特に企業などにお勤めの方にとっては、毎年おなじみの検診ですよ。ただ検診への関心は上昇しているものの、精密検査が必要な人が実際に医療機関を受診する割合は3～5割とされています。各健診機関において受診勧奨を行うも、全体的にみてまだまだ受診率が高いとはいえない状況です。たとえば、5大がん検診で『異常あり：要精密検査』と判定された人の中のうち、『がん』と診断された人の割合：陽性反応的中度（表1）は1.5～4.8%程度です。部位別がん死亡数男女とも上位の肺がんでは40人に1人、大腸がんでは30人に1人、女性の乳がんにおいては20人に1人が実際にがんと診断されています。この割合を低いと感じる方も多かもしれませんが、先に述べたとおりすべての人が精密検査を受けているわけではないため、実際はもっと高い割合かもしれないのです。

表1：がん検診で『異常あり：要精密検査』の割合と『陽性反応的中度』

	胃がん (胃X線)	大腸がん (便潜血)	肺がん (肺X線)	乳がん (乳房X線)	子宮頸がん (細胞診)
要精密検査の割合 (%)	7.5	6.5	1.7	6.3	2.1
要精密検査のうち、 がんと診断された割合 (%)	1.6	3.0	2.5	4.8	1.5
：陽性反応的中度					

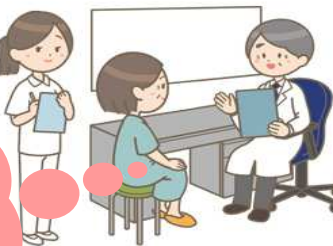
国立がん研究センター「全国がん検診実施状況」2020年版より

また、精密検査の結果、がんではないが定期的な検査で経過観察を要するものも少なくありません。翌年の健診ではやはりがんであった、というケースもあります。つまり、がん検診で『異常あり』＝『がん』とすぐに決めつけて怯える必要は全くありませんが、要精密検査を先延ばしにするのはリスクが大きいということです。

## 理由をつけて受診しない・・・

来年また  
同じ結果なら  
受診しよう

休みたいとは言え  
ないから、また1年  
後に受診すれば  
いいか・・・



精密検査を受け  
た同僚が異常な  
かったから、自分  
も大丈夫だろう

精密検査となると  
大掛かりと聞いた  
しやめとこう



若いから大丈夫！

こんなに元気だ  
し・・・  
症状ないもん！



## ・・・それ、後悔 しませんか・・・？

言うまでもなく、がんは万が一進行を見逃しかつ放置すると命を落とす確率が高い病です。ですが、早期に発見・治療すればほとんどが治せる病でもあります。落ち着いて、できるだけスケジュールを優先させ、必ず精密検査を受けましょう。

『異常あり』→すぐ受診→医師の指示のもと経過観察  
わからないことは遠慮なく質問しましょう



今年度の健診がお済みでない方は、  
是非がん検診もご検討くださいませ\*